

高専の改造計画

2011年12月

石田博樹（長岡工業高等専門学校）

起案の目的と背景

高専の社会的信用を高め、入学志願者の増加を図り、入学者の期待に応える教育機関を目指す。1960年代の高度経済成長期の人手不足に応えた高専教育の終焉と破綻が明白。今日は高専教員の研究力量が飛躍的に向上。今日の工学教育の中心は大学院修士課程へ移行。

本改造計画の立脚点

- (1) 「高専問題の打開と展望」（石田博樹 2000年）を承認する。
- (2) 高専制度は、創立以来、現在に至るも「安上がり主義」であるために社会的信用がない。
- (3) 高専制度の本質は「中卒者を対象とする即席の5年制職業訓練学校」に過ぎない。
創立当初より、理工学の社会的戦力として「高専卒」では力量不足。
- (4) 高専の一般教育は、高校設置基準を満たしていない。
- (5) 高専卒業者の大半に「高卒の基礎学力」がついていない。
- (6) 高専制度を入学者の期待に応え得る、まともな「理工学の教育システム」に近づきたい。

本改造計画の骨子

- (1) 現行の高専設置基準を撤廃し、専門学科の教員の採用資格には大学設置基準を適用する。
- (2) 入学者を学科に分けずに一括募集する。
- (3) 最初の3年間にて高校の教育課程を完全に保障し、4年生以上を単位制システムとする。
- (4) 3年修了時に、4年次への進級資格試験を行なう。
- (5) 3年修了時における進路変更を制度として完全に保障する。
- (6) 専攻科の入学者許容定員を本科の半数以上とし、4年次から専攻科2年修了次までを大学課程とし、高校と工科系大学を合わせた7年制の教育システムとする。

本改造計画の実施方法

- (1) 現行の国立高専55校を20校以下に統廃合し、入試倍率を常に3,4倍程度に維持させる。
- (2) 国立高専機構が抱える教員(3800人)と職員(2400人)を適切な配置転換により、現在の半数以下に削減する。
- (3) 専門学科の現行教員の相当割合を配置転換により一般教育の担当教員とし、高専の最初の3年間にて高校設置基準の教育課程を保障する。
- (4) 4年次への進級試験として大学入試センター試験を用いてもよい。3年修了時に他大学や異分野への進学も可能とする。
- (5) 各専門学科での学習に必要とされる基礎科目の1,2を3年次の選択科目として履修させ、4年次の専門学科への進級の条件とする。
- (6) 3年修了前に4年次の進学希望学科を複数申告させ、原則として成績順に進学学科を決める。
- (7) 専攻科の修了者には自動的に学士号を授与する。